

「守ろう、支えよう、大好きな故郷」

東部中1年生「風水害タイムライン学習」

台風や大雨など事前に予測できる風水害に対し、「いつ」「だれが」「何をするのか」を「防災行動計画(タイムライン)」として家族で相談しながら決めておくことで、発災時への備えとなることを学びました。



生徒の感想

・タイムラインを家族で作成して、いつ、誰が、どんな状況で、何をすればよいのか、頭の中を整理することができました。実際に災害が起きたときには、タイムライン通りにはいかなかったり、できなかったりするかもしれませんが、目の前の状況に合わせて臨機応変に行動できるようにしたいです。

・家族で相談したことで、中学生の僕にもできることがあることがわかりました。家族の中での役割についても、性別や年齢によって向き不向きがあるなど、事前に考えたことで、新たな発見がたくさんありました。

小中合同防災学習

「救出救護技術講座」「避難所簡易グッズ作り講座」に、中学生が小学生と関わり合いながら主体的に取り組むことで防災リーダーとしての意識の向上や、また、同じ地域で生活するもの同士で発災時に協力して救助活動に取り組めるような関係作りをめざしました。



児童生徒の感想

・今日、中学生に教えてもらったことを1～3年生の子に教えてあげたいです。いろいろな子が作れるようになることでいざという時に助かると思います。

・自分がわかっていてもそれを正しく伝えられなければ、いざというときに役に立たない！と教えていて実感しました。一緒に作ってあげながら、分かりやすい言葉で説明することで理解してもらえたと思います。

防災学習のまとめ

本事業を通して学んだ「東部地区の被害」「風水害などへの防災対策」「指定避難所や避難方法」などについて、生徒各自がまとめた新聞を作成しました。

そして、地域にこの学びを広げるために、モデル地域3校の児童生徒、保護者、地区自主防災会などに配布しました。



今後も学校・地域・行政が連携し、学校安全に係る取り組みをさらに推進していきます！

はじめに

西尾市は、平成26年5月に愛知県が公表した南海トラフ地震の被害予測調査結果において、長い海岸線と軟弱な地盤を抱えていることなどから、県内で最も深刻な被害が予測されています。特に津波被害が危惧されており、本市では平成30年3月に「津波浸水避難シミュレーション(現在:津波避難計画)」を作成し、市民の皆様には、津波発生の際は浸水想定区域外へ避難することを推奨してきました。

そのような中、平成30年度より愛知県教育委員会から本事業の委託を受け、学校安全に向けた取り組みを進めてきました。モデル地域として、広い範囲で津波被害が危惧されている「一色地区(平成30年度)」「吉良地区(令和元年度)」を、また、同様に津波避難を周知していく必要のある「寺津地区(令和2年度)」を設定しました。令和3年度は、地震による被害とともに、風水害において甚大な被害が想定されている「東部地区」をモデル地域に設定し、命を守るための防災活動を進めてきました。



事業の名称

昨今、全国各地で災害が発生しており、これまで以上に防災に対する意識強化を図るとともに、学校安全に係る取り組みをさらに進めていくことは重要課題となっています。一方で、災害に対して過剰になりすぎることは、子どもたちの故郷に対する愛着が薄れてしまうことにも繋がりがねません。中には、この先何十年と地元で生活し、地元で活躍する子どもも多くいるはずで、そこで、「防災」に関する学習を通して、有事の際は故郷を守り、支えていける防災リーダーとして活躍できる人材となしてほしいという願いを込め、本事業の名称を「守ろう、支えよう、大好きな故郷(ふるさと)」としました。



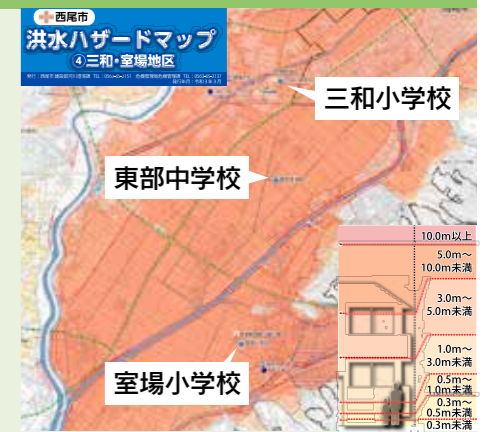
事業の主な目標

- ・児童生徒が地震津波、洪水など風水害に対する正しい知識を身に付けるとともに、災害発生時には**防災リーダーとして積極的に活動できること**をめざす。
- ・児童生徒が取り組んだ成果等を自ら外部に発信していくことで、**学校間、地域間の防災に対する意識の差の解消**をめざす。

モデル地域及び拠点校の設定

【モデル地域:東部地区(東部中学校、三和小学校、室場小学校)】
【拠点校:東部中学校】

令和3年4月に発行された「西尾市洪水ハザードマップ」によると、津波同様、市内の3分の1が浸水する想定となっており、全人口約17万人のうち約14万人が避難する想定となっています。さらに近年の台風の大規模化、ゲリラ豪雨など大雨の頻発や長期化などからも風水害(洪水・土砂崩れ)などに対する備えや避難方法も周知・習得させる必要があります。それらを踏まえ、**地震津波だけでなく、風水害などの自然災害に対する幅広い知識や、避難方法の習得などについて理解する必要がある東部地区をモデル地域に設定し、事業を進めること**にしました。また、自らの命を守ることはもちろん、「守られる側から守る側へ」という意識を育てることが大切であると考え、防災リーダー育成の観点から東部中学校を拠点校とし、東部中学校の1年生を中心に防災活動を進めていきました。



実践委員会の設置

年3回の実践委員会(学校関係者、地域団体、行政で組織)を通して、より効果的な活動方法などについて意見交換をしたり、避難訓練など防災に関わる取り組みにおける各校の課題などを共有したりすることができました。

防災教育アドバイザー 近藤ひろ子氏(JICA防災教育担当専門家)
東部地区自主防災会連絡協議会会長、東部中学校PTA会長
西尾警察署、西尾市消防本部、東部中学校長及びモデル地域3校教員
県教育委員会、市教育委員会、危機管理課職員



実践委員会の様子

モデル地域3校での「防災学習」

小中学生に、自然災害の恐ろしさ、西尾市や各校区における被害想定、小中学生が発災時に自宅や学校などでできること、西尾市の災害に対する備えなどについて紹介するため、危機管理課職員による防災学習を実施しました。

動画や写真、資料などを使い説明するなかで「いざという時に『やっておけばよかった』ではなく『やっておいてよかった』と実感できるような防災学習を進めてほしい」「思うだけ・考えるだけではなく、実際に備えたり、話し合ったりするなど行動に移してほしい」などのお願いに対して真剣に耳を傾け、大きくうなづく姿を見ることができました。



室場小学校



東部中学校



三和小学校

児童生徒の感想

- ・地震津波については聞いたことがありましたが、洪水について初めて知りました。私の住むこの地区が洪水の危険があることを知り、洪水についてもっとしっかり知る必要があると感じました。
- ・まずは「自助」で、自分の命は自分で守れるようにしたいと思いました。そのために防災のための訓練が大切だと感じました。訓練で学んだことを生かしたり、防災マップを見て避難ができるようにしたりすることで命を守りたいです。

モデル地域3校での「近藤ひろ子防災教育アドバイザー防災講話」

地震・津波や風水害などの災害に関する正しい知識を身につけるため、防災教育アドバイザーによる防災講話を実施しました。防災とは「命を守ること」だけではなく、「みんなと一緒に生き延びていくこと」であることをご示唆いただきました。また自然災害の怖さやそれらに対する必要な備えについて、防災における大切な合言葉をわかりやすく「いつもおかに」ソングで紹介していただいたりしたことで、助け合える関係をつくるためには常日頃から「笑顔であいさつすること」が大切だと教えてくださったりしました。



室場小学校



東部中学校



三和小学校

児童生徒の感想

- ・いざというときに、「命」「ささえ合い」「自分から動く」ことが大切だということがわかりました。そのために、日ごろから自分の周りの人たちにあいさつをすると、いざというときに助け合える関係になることもわかりました。
- ・家の家具をチェックするのに合言葉「う・た・お」の「うごかない」「たおれない」「おちてこない」が大切だということを知りました。私の家はこの合言葉があまりできていないので、家に帰って「う・た・お」をチェックしたいです。

東部中1年生「災害クッキング講座」

名古屋文化短期大学の山田実加教授をお招きし「防災を楽しむこと」をテーマに、災害時の食に特化した講座を行い防災意識の向上を図ることを目的に実施しました。災害時に活用できる調理方法であるバック・クッキング法（ポリ袋とカセットコンロを使用）に取り組みました。「あたたかいものを食べることができれば体も心もなごむ。また、洗い物も少なく簡単に調理ができる良さがある。」とご指導いただきました。



山田実加教授



調理実習

生徒の感想

- ・家にある材料を工夫することで、電気やガスコンロを使わなくても料理ができることがわかりました。災害はいつ起きてもおかしくないなので、今回学んだことを、親や兄妹に伝えたり、家でも作ったりしたいです。
- ・ステージ1、ステージ2という言い方を初めて知りました。カセットコンロやカセットボンベを備蓄しておくことで、いろいろな場面で役立つことも知りました。
- ・高密度のポリ袋があるととても便利だということがわかりました。いざという時のために、自分の家でも備えておきたいです。

東部中1年生「防災講演会」「防災講座」

【防災講演会】 演題「自然災害から身を守るために知っておくこと」

名古屋地方気象台より若杉栄一気象防災情報調整官をお招きし講話を行いました。基本的な天気図の見方や台風など気象災害について、また警戒レベルと防災気象情報の活用方法などについて、実際の気象図や資料を使いわかりやすくお話をいただきました。



講演会の様子



講演会の様子

生徒の感想

- ・台風などの風水害は事前を知ることができるので、ニュースなどで情報収集して、最悪の事態を防ぐ準備をすることが大切だとわかりました。
- ・天気図の見方、気象情報の読み方などを知ることができたので、いざという時のために、日々の天気予報をしっかり見聞きすることで備えたいです。
- ・自然災害に対して、事前の準備がとても大切だということあらためて学ぶことができました。非常持出袋は自分の家で備えていないので、すぐに親に話して、準備できるようにしたいです。

【防災講座「救出救護技術講座」「避難所簡易グッズ作り講座」】

災害発生時に、一人でも多くの方の命を守るために救出救護の技術を身につけることや、避難所などでより快適に過ごせるようにするために身近にあるものをひと工夫して活用することについて学びました。



搬送法講座



止血法講座



ロープ結索講座



搬送法講座



広告食器作り



新聞紙スリッパ作り

生徒の感想

- ・直接圧迫止血法では、骨のある箇所は強く圧迫することで止血できることを知りました。もし、家族など周りにいる人でケガ人がいたら、自分にできることを、勇気を出して行きたいです。
- ・ロープ結索では、倒壊建物の下敷きになったり、樹木の下敷きになったりした人がいたら、近くにいる人と協力して救助できるように、ロープのしぼり方を忘れないように何度も復習したいです。
- ・スリッパ作りでは、避難所で素足のまま歩きまわるとはとても危険だと学びました。たかが新聞紙ですが、何枚か重ねて作ることでケガの予防になると思うので、たくさん作って避難所のみなさんに配りたいです。
- ・担架がない場合にも、身近にあるものを工夫することで、人を安全に運ぶことがわかりました。また、道具がなくても、今回学んだ持ち方なら思ったより簡単に運ぶことができました。

室場小4年生「防災マップ」作り

自分たちの町の防災について調べ、集めた情報を「防災マップ」にまとめることで、地震などの自然災害が起きたときに無事に避難できる経路について考えたり、調べてきたことを地域の人などに発信したりすることをめざしました。



グループ発表会



意見交換

児童の感想

- ・防災マップを作って、防災について真剣に考えることが一番大切だと感じました。マップを作るために通学路を見て回ったら、危ないブロック塀がいくつかありました。マップにのせることで地域の人にも知ってもらいたいです。
- ・「もし災害が起きたら」をみんなで考えておけば、実際に起きた時に役立つと思いました。危ない場所、安全な場所、防災倉庫、避難所などいざという時に多くの人々が助かるためにわかりやすくマップにのせることが大切だと思います。